

収蔵作品展

佐倉・房総ゆかりの作家たち



荒谷直之介《みどり》

2025年11月1日[土]～12月21日[日]【入場無料】

10:00～18:00(入館は17:30まで) 休館日=11月4日、10日、17日、25日、12月1日、8日、15日 主催：佐倉市立美術館

佐倉市立美術館!...[GO](#)

収蔵作品展

佐倉・房総ゆかりの作家たち



浅井忠《風景》明治35年～40年(1902～1907)



篠崎輝夫《西域考》平成4年(1992)



春日部たすく《盆地》昭和29年(1954)

水彩絵具には透明水彩と不透明水彩の区別があることは良く知られています。前者は紙の地を生かし透明感のある彩色を施していく一方、後者は絵具の厚塗りや重ね塗りを行うことができます。

日本では、幕末から明治初期に透明水彩がもたらされ、明治10年代に工部美術学校で素描から油彩画を制作するための準備段階として水彩画の指導が行われ、画学生だった浅井忠などが水彩画を描くようになりました。明治末には水彩画は広く浸透し、展覧会で作品が入選するなど隆盛を迎えます。

大正期には、多くの油彩画家が瞬時に感動を描きとめることができる画材として水彩画を描くようになります。

昭和に入り、若い画家たちが結成した研究会(後の蒼原会)や小堀進、荒谷直之介による水彩連盟が結成され、透明水彩だけにこだわらず、不透明水彩を用いて油彩に匹敵するような大作を描こうとする運動が盛んになります。

本展では、油彩画と水彩画のコーナーを設け、油彩画とともに水彩画を描いた作家たちと水彩画を専門とする作家たちの作品を紹介し、それぞれの多様な表現の魅力を探ります。

また、昨年11月に逝去した高橋真琴氏を偲び、氏が原画を提供した佐倉フラワーフェスタのポスターなど、郷土ゆかりの作家の作品・資料を展示します。



荒谷直之介《K君の像(K氏像)》昭和25年(1950)



小堀進《雪のある山》昭和45年(1970)



霜島之彦《静物》昭和24年(1949)



長谷川良雄《安楽寿院》明治39年頃(c.1906)

【会期中のイベント】

※申込不要・無料

女子美術大学創立125周年記念 日本画作品展「美粒子」

(協力：女子美術大学日本画研究室)

10月28日(火)～11月9日(日)

10:00～18:00(最終日15:00まで)

会場：3階展示室

ミュージアムコンサート

(協力：佐倉楽友協会) 各日14:00～

●11月16日(日) 4階ホール

相馬康代、相馬真愉、相馬凜(等三重奏)

●12月21日(日) 1階ロビー

坂井裕子、藤原陽子(ピアノ・ソロ及び連弾)

【関連事業】

※申込不要・無料

学芸員によるギャラリートーク

11月8日(土) 14:00～

2階展示室入り口にお集まりください。

ミテハナ鑑賞会

(協力：ミテ・ハナソウ佐倉)

11月23日(日) 14:00～15:00

定員 10名(先着順)

※開始10分前に1階 階段前集合

【次回展覧会】

広野多珂子 絵本原画展

2026年1月24日(土)～3月29日(日)

一般 800円／大学生 600円／高校生以下無料



アクセス

【電車】○京成佐倉駅南口より徒歩8分、または、京成バス千葉イースト「JR佐倉駅」方面行きで「佐倉市立美術館」下車。

○JR佐倉駅北口より徒歩20分、または、京成バス千葉イースト「京成佐倉駅」方面行きで「二番町」下車。

【車】東関東自動車道佐倉I.C.より約5km(15分)、「夢咲くら館」駐車場などをご利用ください。※台数に限りがあるため、なるべく公共交通機関をご利用ください。

佐倉市立美術館!...cc
Sakura City Museum of Art

〒285-0023 千葉県佐倉市新町210番地 TEL.043-485-7851
<https://www.city.sakura.lg.jp/section/museum/>

